



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク：在イラク米国大使館の体制と米軍の状況

(1日付 AFP 電ほか)

1. 今後の在イラク米国大使館の体制 (1日付 AFP 電)

- (1) 1日、ジェフリー駐イラク米国大使は、2011年および2012年の米国議会で法案が通過し予算が確保できれば、現在8千人強の在イラク米国大使館の人員が2012年までに約2倍になる（ただし米軍兵士がこの数字に占める割合は非常に小さい）と述べた。さらに同大使は、在イラク米国大使館は、既存の任務に加え、イラク駐留米軍の任務の一部も引き継ぎ、米国製装備を有するイラク軍を支援するため米軍の軍事アドバイザーおよびトレーナーはそのまま留まるか追加されることとなるが、これらの中に戦闘部隊は含まれないと述べた。
- (2) 2月、ジェフリー米国大使とオースティン駐留米軍司令官は、米軍撤退後も、在イラク米国大使館は5千5百人の民間警備員に厳重に守られ、イラクは安定した状態が続くだろうと述べている。2012年には、在イラク米国大使館は、2支所、2領事館および3警察訓練施設を含む2万人体制となる。この人員数には、武装民間警備員、支援要員および外交官が含まれる。

2. イラク駐留米軍の現在までの被害状況 (3日付 AFP 電)

- (1) 3日の米軍発表によれば、2日、IDF攻撃により米軍兵士2名が犠牲となり、2003年のイラク侵攻以後の米軍犠牲者総数は4443名となった。
- (2) 2010年の米軍兵士の犠牲者は60名であり、2003年以降最小。